

《担当者名》白石 淳 [jun-jun@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

子どものたちの日常生活は、どのようなものなのか。その過ごし方は、どの子どもの生活も「普通」という言葉で表せるのか。「普通でない」過ごし方をした子どもたちは、どのような生活をしているのか。その差はどこにあるのか。この授業では、このような疑問に答えるために、福祉の基本的な事項である「自己選択、自己決定」を踏まえながら、子どもたちが日常生活を送る際のターニングポイントとなる「選択」に焦点をあて、その子どもたちの教育に係わる問題を取り上げ、本来自由であるはずの選択の自由が阻害される要因を追求する。また問題を生じさせている要因を解決するための支援方法などについても考察する。

【学修目標】

授業終了後には、次に示されたことができるようになる。

- 1) 日常生活における「選択の自由」がいかに重要なのかを、福祉の視点で捉えることができる。
- 2) 上記の問題を阻害する要因を、他人に説明することができる。
- 3) 上記の問題を解決する糸口を掴むことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	授業のガイダンス、バリアフリーが必要な理由	授業を紹介するとともに、学ぶ上での準備・注意事項などについて説明し、学び方を理解する。また、バリアフリーはノーマライゼーションを実現する手法であることを学ぶ。	白石
2	バリアフリーの意味と従来・これからの考え方	バリアフリーの種類を学び、従来とこれからの考え方の違いを学ぶ。これは、「障害」「障がい」という用語の使い方にも関係することを知る。	白石
3	バリアをもととした選択の自由を阻害する要因	子どもが進路の選択をする際に選択できない場合があることを知り、選択上のバリアフリーの哲学について学ぶ。	白石
4	「どうせ」というバリアと同調圧力の存在	子どもしばしば用いる「どうせ」という言葉の意味を考える。その生成要因を探求する。また、「茶色い朝」の物語の意味すること(自己決定ができないようになる過程)を考える。	白石
5	空気を読むの意味	同調圧力、同調行動の意味、内容を学ぶ。「空気を読む」と、社会的な事件にもなることもあり、また、子どもたちも空気を読み行動していることを理解する。	白石
6	同調圧力と多数決の原理	「多数決は、本当に多数の意見なのか」ということを、同調圧力の理解から、理論的に学ぶ。	白石
7	「妬み」が生じる理由	「妬み」の生成要因を、階層社会、平等主義、個人主義から学ぶ。	白石
8	非行をおこした子どもの生活環境	非行を起こす要因、再犯をくり前す要因を、これまでの授業を踏まえて学ぶ。	白石
9	虐待を受けている子どもの生活環境	N町の殺人事件をとりあげ、分析を行い、虐待が生じる原因、問題点を学ぶ。	白石
10	ケーパビリティの理論と選択・生活環境との関係	ケーパビリティの理論を学ぶ。その理論をもととして、これまで学んだ内容の課題を考える。	白石
11	フィールドワーク1	メインストリームから外れた子どもの生活と選択の問題について現状を分析しながら調べる(課題の設定)。	白石
12	フィールドワーク2	メインストリームから外れた子どもの生活と選択の問題について、現状を分析しながら調べる(観察、調査など)。	白石
13	フィールドワーク3	メインストリームから外れた子どもの生活と選択の問題について、現状を分析しながら調べる(施設の見学など)。	白石

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	フィールドワーク 4	「メインストリームから外れた子どもの生活と選択の問題について、現状を分析しながら調べる(まとめる)。	白石
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、メインストリームから外れた子どもが持つ課題が生じている要因、その支援についてまとめる。	白石

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業の取組状況(意欲、態度、フィールドワークの内容)50% 課題の提出50%

【教科書】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

小川利夫他(2001)「教育福祉論入門」光生館 4332600614

藤本一勇(2003)「茶色の朝」大月書店 4272600478

日本弁護士連合会(1995)「子どもの権利マニュアル」こうち書房 4876473005

【学修の準備】

各授業回の終了時に、次回まで取り組む事項を伝えるので、必ず取り組むこと。
教育・子どもに関する「新聞記事」に注目をし、自分なりの考えを持つこと。